

第5学年 道徳科学習指導略案

2組計 30人
指導者 児玉 潤一郎

- 1 主 題 名 広い心(B 相互理解, 寛容)
教材名「折れたタワー」(小学道徳 生きる力5 日本文教出版)
- 2 本主題で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	相互理解, 寛容に関する事例の問題点を自分事として捉えながら, 自己の価値観や課題などを見つめることで「自分の問い」を明らかにする力
判断・形成力	教材の主人公に自我関与して考えたり, 相互理解, 寛容について多面的・多角的に考えたりしながら自己を見つめることで, 「自分の問い」への気付きや納得する考えを見だし, 自分の考えを形成する力
創造力	他の内容項目や他教科, 学校行事などと関連付けながら, 多面的・多角的に考えたり, 相互理解, 寛容の大切さを感じたりし, 「自分の問い」を解決するなど, 新たな考えを創り出す力
振り返る力	「自分の問い」や学びの過程を振り返り, 相互理解, 寛容についての自己の生き方に対する思いや願いをもつことで, これからの実生活に生かしたり, 新たな課題発見へとつなげたりする力

3 ねらいとする道徳的価値について

(1) 指導内容についての基本的な立場

「相互理解」とは, 異なった意見や立場をもつ者同士が, その多様性を相互に認め合い, 互いを尊重し, 理解しながら高め合うことである。「寛容」とは, 自分も過ちを犯すことがあるからと自覚し, 自分に謙虚であるからこそ, 他人の失敗や過ちを広い心で受け止めたり, 自分とは異なる意見や立場を受け入れたりしようとする態度である。

本主題では, 自分を含め, 誰にでも失敗があることを理解し, 相手の失敗を許すことができたときの思いを捉えることで, 相手の立場に立って広い心で許そうとする道徳的心情を育てることができるようになる。

(2) 全体計画(別葉)における本主題の位置付け

〈本校の道徳教育の目標〉	よいことと悪いこととの区別を主体的に判断し, 生命ある全てのものを大切にしようとする子供を育てる。
〈重点目標(高学年)〉	様々な生き方への関心を高め, 自己の向上のために高い目標を設定し, その達成を目指して希望と勇気を持ち, 困難があってもくじけず努力しようとする態度を育てる。
〈子供の実態〉	相手のことを考えず自分本位に行動してしまい, 互いに気持ちよく過ごせないことがある。

教科等	主な学習活動	主な教師の手立て
朝の活動 〈学習のテーマ〉	相手や集団, 社会に関わるときの自分の課題や大切にしたいことを考えたり, テーマを掲げたりする。	㉒ よりよい生き方について, 一人一人が現在の自分の考えを見つめ, 課題や大切に感じていることを話し合うことで, テーマに関する「自分の問い」を見いだすことができるようにする。
自分や他の人を大切にしながら, とともに生活していくときに必要なことは何だろうか。		
【道徳科】		
「自分の心に誠実に」 (A 正直, 誠実) 『のりづけされた詩』	主人公が正直に打ち明けた時のつらさや苦しさを捉え, 誠実な行動について考える。	㉓ 主人公に自我関与して考え, 自己を見つめることで, テーマや本時における「自分の問い」への気付きや納得する考えを見だし, 誠実に生活することのよさについて実感できるようにする。
「正義の実現」 (C 公正, 公平, 社会正義) 『名前のない手紙』	吉野さんや周りの子供たちの思いや行動を捉え, 公正, 公平な行いについて考える。	㉔ 役割演技を行うことで, 友達への考えのよさに気付いたり, 自分の考えを深めたりし, テーマや本時における「自分の問い」への気付きや納得する考えを見いだすことができるようにする。
「広い心」 (B 相互理解, 寛容) 『折れたタワー』	誰にでも失敗があることを理解し, 相手の失敗を許す主人公の思いを捉え, 相手の立場に立って, 広い心で許すことについて考える。	㉕ 新たな事例について学び合うことで, 多面的・多角的な考えに触れ, 相手の立場を尊重し, 広い心で相手を許そうとするについて, テーマや本時における「自分の問い」に関する考えを深めることができるようにする。
「ほんとうの自由」 (A 善悪の判断, 自律, 自由と責任) 『うばわれた自由』	みんなが規律を守ることで, それぞれの「自由」が保証されることに気付き, 責任ある行動について考える。	㉖ テーマや本時における「自分の問い」を振り返り, みんなが気持ちよく生活できるように, 今の自分ができることを考えたり, その考えを価値付けたりすることで, 今後へつなぐ実践意欲や態度を高めることができるようにする。
朝の活動	テーマに対する自分の考えをまとめる。また, まとめたものを互いに読み合い, 友達の考えのよさや一緒に実践したことなど, 感想を交流する。	㉗ テーマに関する「自分の問い」を振り返り, 自己を見つめることで, 道徳的価値の理解を深めることができるようにする。そして, 今後の生活で心掛けたいことなどを価値付けることで, 今後へつなぐ実践意欲や態度を高めることができるようにする。
【他教科等との関連】		【家庭や地域社会との連携】
9月 国語科「どちらを選びますか」(相手の考えを尊重し, 自分の考えを広げる) 10月 学級活動「当番活動を見直そう」(責任をもって活動内容を考える) 11月 学校行事「体育科学習発表会」(みんなで協力し, 助け合う) 11月 体育科「心の健康」(自分自身と向き合い, 生活の仕方を考える)		テーマに関わる学習内容や学習活動の様子を学級通信などで知らせる。また, 子供が学んだことを記述したワークシート「心のプリント」を保護者に見せ, 価値付けてもらう。

4 子供の実態について

実態調査の結果から、本学級には、失敗した友達を許すことができた経験があると答えた子供が多いことが分かった。その一方で、友達を許した方がよいことだと分かっている、「いらいらしていたから」、「焦っていたから」などの心の弱さから友達を許せなかった経験が実際にはあることも分かった。また、友達を許すことができなかつた理由として、「相手が反省していなかつたから」など、互いを尊重し、友達のことを理解することで自分が高まっていくことを理解していない子供が多いことが分かった。そこで本時では、自分を含め、誰にでも失敗があることを理解し、相手の失敗を許そうとする主人公の思いを捉えることを通して、相手の立場を尊重し、広い心で許そうとする内面的資質を高めることができるようにする。

5 教材について

主人公のひろしは、給食当番でマスクを忘れ、そのことで級友ののりおに強く責められる。数日後、のりおに一生懸命作った作品を壊されてしまったが、故意ではないのりおの行為を許す話である。大事な作品を壊されてしまったが、のりおの落ち込む様子を見て、許そうと決めたときのひろしの気持ちを捉えることで、相手の立場に立って広い心で許そうとする心情を育てることができるようにするために本教材を活用する。

6 指導に当たって

(1) 「必要性」を実感する教師の手立て

「気付く」過程では、まず、テーマ学習で学んだことや実践状況などを大型モニターに提示することで、前時までの学習を振り返ったり、実生活で実践できたことを発表し合ったりして、これまでの経験を想起できるようにする。次に、「友達に広い心で接してもらえると、どんな気持ちになりますか。」と問いかけ、道徳的価値の意義について考える。その後、「友達の失敗を許すことができなかったことがありますか。それはなぜですか。」と問いかけることで、既得の道徳的価値を想起しながら広い心についての自己の価値観や課題に気付き、問題意識を高めることができるようにする。そして、一人一人が「広い心をもつためには、どんな気持ちが必要だろう。」などといった「自分の問い」を見だし、主体的に活動できるようにする。

(2) 「自律性」を実感する教師の手立て

「見つめる」過程の前半では、まず、教材を一読後、「タワーを壊された直後のひろしは、どんな気持ちになったと思いますか。」と問いかけることで、ひろしに自我関与して考え、相手の立場を尊重しないなどの心の弱さが誰にでもあることに気付くことができるようにする。

「深める」過程では、タブレットPCを用いて、「自分の問い」に対する考えを全体で共有する。その際、スタンディングミーティングを行い、自己を見つめながら話し合うことで、広い心について多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深めることができるようにする。そして、新たに気付いた道徳的価値や「自分の問い」に対する考え、これからの生活にどのように生かしたいかななどを「心のプリント」に記述することで、今後のよりよい生き方に気付き、学びを自覚することができるようにする。さらに、全体で共有するために、発表し合い、それを教師が価値付けることで、内面的資質を継続的に高めることができるようにする。

(3) 「関係性」を実感する教師の手立て

「見つめる」過程の前半では、のりおを許そうと決めた時のひろしの支えとなった気持ちについて考える際に、「そんなに嫌な気持ちになっているのなら怒った方がよいと思いますが、みなさんは、どう思いますか。」と問いかけることで、「すぐに感情的になってはいけない。」ことなどに気付き、ひろしがのりおを許そうと決めた時の支えとなった気持ちについて記述できるようにする。

「見つめる」過程の後半では、グループや全体での学び合いを行うことで、広い心について多面的・多角的に考えながら、のりおを許したひろしの気持ちを捉えることができるようにする。その際、「のりおを許すことには、どんなよさがあるのでしょうか。」と問いかけることで、「お互いの心がすっきりする。」、「お互いに認め合えると、信じ合うことができる。」などの道徳的価値の意義に気付くことができるようにする。さらに、「どんな時でも許すことが大事ですね。」と問いかけ、他の内容項目やテーマと関連付けることで、「自分の問い」への納得する考えを見出すことができるようにする。

(4) 「有用性」を実感する教師の手立て

「高める」過程では、身近な事例を提示し、自分ならどのように対応するかを話し合うことで、相手の立場を尊重し、広い心で相手を許そうとすることについての考えを深めることができるようにする。その後、深めた考えを全体で発表し合い、教師がその考えの理由を価値付けることで、今後のよりよい生き方を目指し、実生活に生かそうとする道徳的実践意欲や態度を高めることができるようにする。

7 本 時

- (1) ねらい 相手の失敗を許そうとするひろしの思いを捉えることを通して、相手の立場を尊重し、広い心で許そうとする道徳的心情を育てる。
- (2) 展 開 教師の言葉掛け 子供の反応 重点評価項目

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	主な教師の手立て
気付く (8)	<p>1 前時までの学習を振り返ったり、相互理解、寛容に関する事例の問題点を捉えたりすることで、これから考えていきたい問題に気付く。【「自分の問い」づくりタイム】</p> <p>友達に広い心で接してもらえると、どんな気持ちになりますか。</p> <p>・ 安心する。 ・ 嬉しくなる。 ・ 優しくなる。</p> <p>友達の失敗を許すことができなかつたことがありますか。それはなぜですか。</p> <p>・ 大切にしているものを壊されて許すことができなかつた。</p> <p>・ 強く言わないと伝わらないと思ったから。</p>	<p>㊸ テーマ学習で学んだことや実践状況について振り返ることで、これまでの経験を想起できるようにする。次に、広い心で接してもらえたときの気持ちや相手を許すことができなかつた経験について考えることで、広い心についての既得の道徳的価値を想起しながら自己の価値観や課題に気づき、問題意識を高めることができるようにする。そして、一人一人が「自分の問い」を見だし、主体的に活動できるようにする。</p>
見つける (20)	<p>2 相互理解、寛容に対する本時のめあてを見いだす。</p> <p>広い心をもつためには、どんな気持ちや考えが大切だろうか。</p> <p>3 教材「折れたタワー」を一読し、主人公の気持ちを捉えながら、広い心をもつために大切にすべき考えについて話し合う。 【「自分の問い」追究・交流タイム】</p> <p>(1) タワーを壊されたひろしに自我関与して考え、自分ならどのように感じるかを考える。【人間理解】【他者理解】</p> <p>タワーを壊されたひろしは、どんなことを考えたと思いますか。</p> <p>・ 数日前のことがあるから、言い返したい。</p> <p>・ 一生懸命作ったのに、どうしてくれるんだ。</p> <p>・ のりおの作品も壊したい。</p> <p>(2) 失敗を許したひろしについて考える。【価値理解】【他者理解】</p> <p>ひろしは、どんな気持ちでのりおを許そうとしたのでしょうか。</p> <p>・ ここで怒っても意味がない。 ・ 誰にでも失敗はある。</p> <p>・ 自分が嫌だと感じたことは相手にしたくない。</p> <p>(3) 広い心をもつよさについて考える。【価値理解】【他者理解】</p> <p>のりおを許すことには、どんなよさがあるのでしょうか。</p> <p>・ お互いの心がすっきりする。</p> <p>・ お互いに認め合えると、信じ合うことができる。</p> <p>・ 楽しい学級になっていく。</p>	
深める (12)	<p>4 「相互理解、寛容」について大切にすべき気持ちについて本時で考えたことを振り返る。【「自分の問い」振り返りタイム】</p> <p>広い心をもつために、どんな気持ちや考えを大切にしたいですか。</p> <p>・ 相手の立場に立って考えようとする気持ち。</p> <p>・ 失敗は誰にでもあるから、お互い様だという考え。</p> <p>5 新たに気付いた道徳的価値や「自分の問い」に対する考え、これからの生活にどのように生かしたいかななどを記述し、発表し合う。</p> <p>・ もし失敗したのが自分だったらと考えたら、相手の気持ちも分かって許してあげられると思う。</p> <p>・ 誰にでも失敗することがあると思って、優しく声を掛けられるようにしたい。</p>	<p>㊹ 教材を一読後、タワーを壊されたひろしの気持ちについて問いかけることで、ひろしに自我関与して考え、相手の立場を尊重しないなどの心の弱さが誰にでもあることに気付くことができるようにする。</p> <p>㊺ 相手の失敗を許そうと決めたときのひろしの支えとなった気持ちについて記述し、グループや全体での学び合いを行うことで、広い心についての考えを深め、のりおを許したひろしの気持ちを捉えることができるようにする。</p> <p>㊻ 「のりおを許すことには、どんなよさがあるのでしょうか。」と問いかけることで、道徳的価値の意義に気付いたり、他の内容項目やテーマと関連付けたりすることで、「自分の問い」への納得する考えを見いだすことができるようにする。</p>
高める (5)	<p>6 身近な事例について学び合うことで、自分の考えを再考する。 【価値理解】【他者理解】</p> <p>みんなで遊ぶ日なのに、別のことをしている友達がいます。みなさんならどうしますか。</p> <p>・ 「大丈夫。何かあったの。」と聞いてみる。</p> <p>・ 「何か理由があるかもしれないよ。」と周りに伝える。</p>	

「必要性」

「関係性」

「自律性」

「有用性」

第5学年道徳科 授業デザインシート（テーマ）

テーマ	自分や周りの人を大切にしながら、ともに生活していくときに必要なことは何だろうか。
-----	--

本テーマで育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	自分や周りの人を大切にしながら、ともに生活していくことに関する事例の問題点を自分事として捉えながら、自己の価値観や課題などを見つめることで「自分の問い」を明らかにする力
判断・形成力	教材の主人公に自我関与して考えたり、自分や周りの人を大切にしながら、ともに生活していくことについて多面的・多角的に考えたりしながら自己を見つめることで、「自分の問い」への気付きや納得する考えを見いだすことで自分の考えを形成する力
創造力	他の内容項目や他教科、学校行事などと関連付けながら、多面的・多角的に考えたり、自分や周りの人を大切にしながら、ともに生活していくことに関する道徳的価値の大切さを感じたりし、「自分の問い」を解決するなど、新たな考えを創り出す力
振り返る力	「自分の問い」や自分の学びの過程を振り返り、自分や周りの人を大切にしながら、ともに生活していくことについての自己の生き方に対する思いや願いをもつことで、これからの実生活に生かしたり、新たな課題発見へとつなげたりする力

本テーマの授業デザイン

本テーマで育成を目指す資質・能力と特に関わりのある学習活動において、以下のような手立てを行い、その有効性を検証しながら授業をデザインすることにした。

〔第1時〕 主題名 自分の心に誠実に(A 正直, 誠実) 教材名 「のりづけされた詩」

ねらい: 本にある詩を写して自分の詩として提出してしまった和伎が、先生に打ち明けたときのつらさや苦しさを捉えることを通して、誠実に明るく生きていこうとする心情を育てる。

判断・形成力	【目指す子供の姿】	【「自律性」を実感する教師の手立て】	【子供の反応】
	主人公に自我関与し、「みんなにばれなければよい」などの心の弱さを自分との関わりで捉え、誠実に明るく生活することの大切さについて多面的・多角的に考えている。	主人公に自我関与して考え、自己を見つめることで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きや納得する考えを見いだし、誠実に生活することのよさについて実感できるようにする。	
【「自律性」を実感する教師の手立ての改善点】			

〔第2時〕 主題名 正義の実現(C 公正, 公平, 社会正義) 教材名 「名前のない手紙」

ねらい: 吉野さんの行動や、周りの子どもたちの思いや悩みを通して、いじめを心から望んでいるものなど誰もいないのだということを理解し、公正公平な行いを大切にしようとする心情を育てる。

判断・形成力	【目指す子供の姿】	【「自律性」を実感する教師の手立て】	【子供の反応】
	吉野さんや周りの子供たちの気持ちを自分との関わりで捉え、「どんな時でも、みんなを助けてあげたい」などの公正、公平な行いのよさについて多面的・多角的にと考えている。	役割演技を行うことで、友達への考えのよさに気付いたり、自分の考えを深めたりし、テーマや本時における「自分の問い」への気付きや納得する考えを見いだすことができるようにする。	
【「自律性」を実感する教師の手立ての改善点】			

〔第3時〕 主題名 広い心(B 相互理解, 寛容) 教材名 「折れたタワー」

ねらい: 相手の失敗を許そうとするひろしの思いを捉えることを通して、相手の立場を尊重し、広い心で許そうとする道徳的心情を育てる。(本時)

創造力	【目指す子供の姿】	【「関係性」を実感する教師の手立て】	【子供の反応】
	相手の失敗を許すことについて、自分との関わりで捉え、「自分のことを振り返る」、「相手の立場に立つ」など、多面的・多角的に考えを深めている。	新たな事例について学び合うことで、多面的・多角的な考えに触れ、相手の立場を尊重し、広い心で相手を許そうとすることについてテーマや本時における「自分の問い」への考えを深めることができるようにする。	
【「関係性」を実感する教師の手立ての改善点】			

〔第4時〕 主題名 ほんとうの自由(A 善悪の判断, 自律, 自由と責任) 教材名 「うばわれた自由」

ねらい: 「自由」とは自分のしたいことを自分勝手に行動することではなく、みんなが規律を守ることによってそれぞれの「自由」が保障されることに気付き、責任ある行動をとろうとする心情を育てる。

振り返る力	【目指す子供の姿】	【「有用性」を実感する教師の手立て】	【子供の反応】
	規律を守ることの大切さについて自分との関わりで考え、「周りの人も幸せになる」などの意義に気付くことで、「自分の自由だけでなく、他者の自由も大切にしたい」など、多面的・多角的に考え、実生活に生かすことを考えている。	テーマや本時における「自分の問い」を振り返り、みんなが気持ちよく生活するために、今の自分ができることを考えたり、その考えを価値付けたりすることで、今後へつなぐ実践意欲や態度を高めることができるようにする。	
【「関係性」を実感する教師の手立ての改善点】			